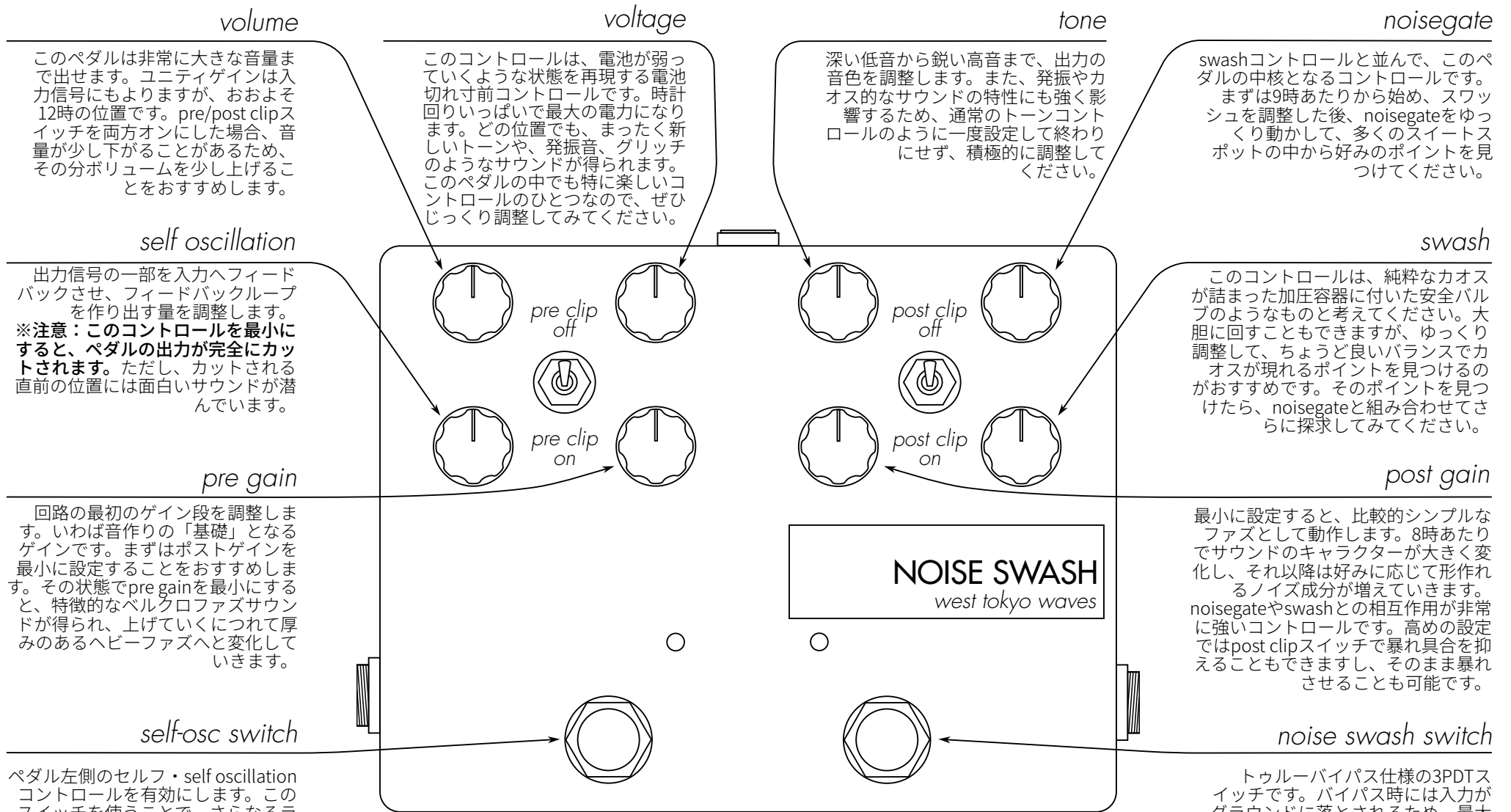


NOISE SWASH USER GUIDE



volume

このペダルは非常に大きな音量まで出せます。ユニティゲインは入力信号にもよりますが、おおよそ12時の位置です。pre/post clipスイッチを両方オンにした場合、音量が少し下がることがあるため、その分ボリュームを少し上げることをおすすめします。

voltage

このコントロールは、電池が弱っていくような状態を再現する電池切れ寸前コントロールです。時計回りいっぱいまで最大の電力になります。どの位置でも、まったく新しいトーンや、発振音、グリッチのようなサウンドが得られます。このペダルの中でも特に楽しいコントロールのひとつなので、ぜひじっくり調整してみてください。

tone

深い低音から鋭い高音まで、出力の音色を調整します。また、発振やカオス的なサウンドの特性にも強く影響するため、通常のトーンコントロールのように一度設定して終わりにせず、積極的に調整してください。

noisegate

swashコントロールと並んで、このペダルの中核となるコントロールです。まずは9時あたりから始め、スイッチを調整した後、noisegateをゆっくり動かして、多くのスイートスポットの中から好みのポイントを見つけてください。

self oscillation

出力信号の一部を入力ヘフィードバックさせ、フィードバックループを作り出す量を調整します。
※注意：このコントロールを最小にすると、ペダルの出力が完全にカットされます。ただし、カットされる直前の位置には面白いサウンドが潜んでいます。

swash

このコントロールは、純粋なカオスが詰まった加圧容器に付いた安全バルブのようなものと考えてください。大胆に回すこともできますが、ゆっくり調整して、ちょうど良いバランスでカオスが現れるポイントを見つけるのがおすすめです。そのポイントを見つけたら、noisegateと組み合わせるさらに探求してみてください。

pre gain

回路の最初のゲイン段を調整します。いわば音作りの「基礎」となるゲインです。まずはポストゲインを最小に設定することをおすすめします。その状態でpre gainを最小にすると、特徴的なベルクロファズサウンドが得られ、上げていくにつれて厚みのあるヘビーファズへと変化していきます。

post gain

最小に設定すると、比較的シンプルなファズとして動作します。8時あたりでサウンドのキャラクターが大きく変化し、それ以降は好みに応じて形作れるノイズ成分が増えていきます。noisegateやswashとの相互作用が非常に強いコントロールです。高めの設定ではpost clipスイッチで暴れ具合を抑えることもできますし、そのまま暴れさせることも可能です。

self-osc switch

ペダル左側のセルフ・self oscillationコントロールを有効にします。このスイッチを使うことで、さらなるランダム性やカオスを加えることも、設定によっては不思議と挙動を落ち着かせることもできます。

noise swash switch

トゥルーバイパス仕様の3PDTスイッチです。バイパス時には入力グラウンドに落とされるため、最大ゲイン設定でもノイズの発生を防ぎます。発振音が後段へ漏れることもありません。

電源は9V (センターマイナス) です
これ以上の電圧では絶対に使用しないでください!
Go have fun out there. west tokyo waves 2026
officially licensed from 4MS Company.